

(別紙5)

調査報告書

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成21年3月21日
調査実施の時間	開始 10時分 ～ 終了15時45分

訪問先事業所名 (都道府県)	<u>グループホーム みずいろの郷</u> (福島県)
-------------------	----------------------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>熊谷まゆみ</u>
	氏名 <u>山内美智子</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>田中裕子</u> ヒアリングを行った職員数 (2)人

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

〔認知症対応型共同生活介護用〕

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年3月21日

【評価実施概要】

事業所番号	0772100624
法人名	株式会社アフロサービス
事業所名	グループホームみずいろの郷
所在地	福島県本宮市本宮字館町1 2 2 番地の1 (電話) 0243-34-6003
評価機関名	会津医療生活協同組合
所在地	福島県会津若松市東千石1丁目2-13
訪問調査日	平成21年3月21日

【情報提供票より】 (21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成21年3月21日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	8 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 1

(2) 建物概要

建物構造	木造	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (2月1日現在)

利用者人数	6 名	男性	1 名	女性	5 名
要介護1	1	要介護2	3		
要介護3	2	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 84.3 歳	最低	74 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	柊記念病院 鈴木歯科医院 よしだ内科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

振興住宅街に位置し閑静ではあるが、近隣にはスーパーや食堂、小売店などがあり利用者が気軽に外出できる環境にある。開所以来職員の異動や離職がないが職員間で課題解決のための話し合いが少ないように思われる。そのためか運営推進会議や避難訓練などやるべきことがやられていない。1人ひとりの職員がプロとしての緊張感を持ちながら利用者となじみの関係をつくりチームワークで日々の理念に基づいたケアが実践できるよう期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価について職員で回覧しているがどのように改善するか話し合いはしていないので改善につながっていない。改善につなげるための話し合いと計画が必要である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価項目を職員に渡しそれぞれ記入してもらい管理者がまとめた。まとめたものを職員全員で話し合っていないので評価の内容が深まっていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)
	運営推進委員のメンバーが固定化されていないため参加者も少なく会議の積み重ねができていない。会議も定期的には開催されず記録も整理されていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が意見や苦情を出しやすい雰囲気を作っている。面会票をつくり意見を書いてもらっている。出されたものは職員で話し合い改善につなげている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域全体が希薄であるが一部なじみの関係もできつつある。近所で火事があったとき近隣住民から心配の電話が入っている。避難訓練など一緒にやって助け助けられる関係を築いて欲しい。

2. 調査報告書

調査員氏名 熊谷まゆみ

／ 同行調査員氏名 山内美智子

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念は作られているが地域密着型サービスとしての役割は明記されていない。	○	理念の大切さを理解し、誰にでもわかりやすい言葉で地域密着型サービスとしての役割も明記した理念を職員みんなで作り上げて欲しい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事務所内に掲示されているが職員で唱和することもなく十分に理解されていない。ケアへの振り返りもされていない。	○	職員だけでなく家族や利用者にもわかりやすい理念を掲げるとともに職員の意識づけで日常のケアに活かして欲しい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	新興住宅街で近隣の関係は疎遠であるが収穫した野菜をやりとりしたり挨拶をしたり関係ができつつある。地域の行事に参加したりボランティアや近隣の小中学生の訪問などあり交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は理解しているが昨年の改善項目について話し合いをしていない。評価項目用紙を各人に渡し記入してもらい回収して管理者がまとめたが職員で深めてはいない。	○	内部評価の内容を深めたり、外部評価を受けてどう改善につなげていくか話し合っ欲しい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	20年度の運営推進会議の記録は整理されていなかった。運営推進委員の名簿がなく固定されたメンバーになっていない。	○	運営推進委員の委嘱や会議の持ち方、日程など話し合い、2ヶ月に1回定期で開催されるよう努めて欲しい。
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	物品購入の領収書と一緒に利用者別に生活の様子を書き込んだ写真入りの通信紙を郵送している。家族によってはメールでの報告もしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議などで意見を聞き出すようにしている。直接話しにくい場合は面会表に書き込みをお願いしている。コミュニケーションのとり方について意見がだされ改善につなげた例もある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者がいない。新しい職員には2週間職員がつき利用者の関わり方や仕事の仕方を伝えている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践研修に4人参加している。が研修報告もなく職員全員のものになっていない。職員会議もなく、研修の共有や内部研修の機会がない。	○	モチベーションを高め、良質のケアを目指せるよう外部研修、内部研修を計画し実践して欲しい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国、県のグループホーム連絡協議会に入会し研修会に参加したり情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	裁縫の得意な人にはズボンのゴム交換や洋服の修理をしてもらったり、畑仕事が得意の人には野菜の栽培をやってもらい助けてもらっている。お茶の時間など職員と一緒にゆっくり過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	実態調査時の家族の聞き取りや利用していたサービス担当者との情報交換、日常的には「今日の発見、ワンポイントケア」などの記録用紙で思いや意向を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者が作成したものに職員が気がついたことを書きこみし、それを計画作成担当者がまとめている。職員で支援の仕方についての話し合いの場はない。	○	紙面だけでなく本人や家族の思いや職員の気づきをどう計画にに入れて実現するか話し合う場が必要である。職員全員が計画作成に参加しそれに基づいて全員で支援していくという意思統一のためにもカンファレンスをして欲しい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。見直しの際は本人や家族の意見も聞いている。最近の病院から退院したばかりで状態の変化がある利用者について計画見直し中である。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医である。受診には職員が同行しているが、受診した結果を家族に報告している。家族だけ付き添いの際は情報交換しあっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応に関する指針」を運営者が作成しているが、職員間で話し合いはなく現実的に対応できる状態ではない。	○	「指針」を職員間で学習し、関連機関との関係など具体的な事例があったらどうするか話し合っって欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを損ねる対応は見られなかった。排泄支援のケアもさりげなかった。個人の記録などは事務室で管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝はそれぞれで1人ひとりのペースを大切に自由に過ごしてる。決められた日課はなく散歩や買い物など利用者の希望で支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者の大きな楽しみが食事であることを意識している。献立づくりや野菜のカット、盛り付けなどできる利用者が職員と一緒にやっている。職員と利用者が同じテーブルで一緒に食事している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日中毎日好きな時間に入浴できる。入浴を拒否される場合は無理強いせず気分の具合を見ながら声かけし気分の良い入浴ができるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	裁縫や畑仕事、掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみなど役割がある。近くの食堂にラーメンを食べに行ったり、近所の店に買い物に出かけたりして気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	近くは買い物や散歩、ちょっと遠くは神社へ出かけ、花見や紅葉狩りなどのドライブは家族と一緒に出かけている。家族へ一時帰宅の勧めもしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は門扉と玄関の鍵をかけていない。利用者が外出しそうなときは職員と一緒に外出している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練はやっていない。	○	消防署の指導の下、近隣住民と一緒に様々な災害時に昼夜を通じて非難できるよう定期的に避難訓練をして欲しい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を1人ひとり把握し記録している。人口透析している利用者のために病院の栄養士に献立の相談をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりして広くて明るいダイニングは季節の花が飾られ清潔ですっきりしていた。トイレや風呂場、洗面台も清潔で異臭がなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	重要事項説明書に入居時に使い慣れた寝具や、家具を準備してくださいと書いてあり使い慣れたたんすや遺影など持ち込まれていた。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

グループホーム みずいろの郷

記入担当者名 管理者 田中 裕子

評価結果に対する事業所の意見

なし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。